

党本部提出（Eメール）締切：11月19日（水）

自由民主党
青年局長 井上信治 殿

「青年党员獲得事業」報告書

岡山県 支部連合会

申請日：平成20年11月18日

事業の名称	第4回日本の未来創造セミナー 「障害者の真の自立のために～障害者自立支援法を考える～」
主催 (実行委員会)	自由民主党岡山県支部連合会青年部・青年局
開催日	平成20年7月12日(土) 13時30分～17時
開催場所	岡山市内 岡山県総合福祉会館 1F大ホール
参加人数	300名 【参加募集の方法】 県内保守系市町村議員へ案内 各種関係団体、イベントで、ビラを配布

【特記すべき事項】

格差が叫ばれる今日、とりわけ、障害者支援をめぐる施策については、地方においても、大きな課題になっている。与党・障害者自立支援に関するプロジェクトチームを立ち上げ、障害者自立支援法の抜本的な見直しを進めているが、この機を狙って、今回のセミナーでは、国、県、基礎自治体の担当者から、障害者施策の方向、現場の状況を聞き、プロジェクトチームの障害者自立支援の改革の方向について説明をして頂いた。特に、利用者、事業者の一般の方の生の声を拝聴させて頂いた。

内容は下記の通り。

- 第1部 厚生労働省担当課長による障害者自立支援法制定の経緯と運用状況について説明
岡山県、岡山市の行政の担当者（課長）から、現行の障害者自立支援法の運用実態の報告。さらに、自治体の医療費公費負担制度や就労支援についての説明
- 第2部 木村義雄 与党障害者自立支援に関するプロジェクトチーム座長による講演
障害者自立支援法の改正の方向について
- 第3部 各種団体から「障害者自立のため」の切実な声を拝聴
予め発表をお願いしていた団体代表の方に加えて、フロアの一般の出席者から多数の質問、要望あり。

他党に比して、選挙以外での政策連携が、やや弱いのではないかという思いが青年部局には強くあったのだが、このセミナーを通じて、国、県、基礎自治体の議員が、政策面でしっかりと連携をとり、国、県、基礎自治体の施策に直接反映させる端緒にしたいとの思いで、思い切って、必ずしも、自民党員でない保守系の町村議員にも案内をさせて頂いた。結果として、町村議員の多数の出席があった。こうした具体的に中央に政策で繋がる企画について、保守系議員の間に、強い期待があるのを肌で感じた。まずは、保守系の地方議員に、確信と誇りを持って、御入党頂けるきっかけをきっちりと作るべきである。

障害者団体については、青年局長が直接、ご案内にまわらせて頂いたが、障害者団体の各種イベントで、積極的に、ピラの配布もさせて頂いた。自民党が今まで行ってこなかったアプローチができたと思う。そうした結果、我が党に対して、必ずしも友好関係にはないと思われる団体も含めて、ほとんど自民党に未入党である多くの一般の方々の御参加を頂くことができた。報道媒体での告知や、各後援会への動員はなかったわけであるから、蓋を開けるまで、参加人数が、明確に読めなかったのであるが、開会のずいぶん前から、多くのご来場があり、口コミで広がった事に驚いた。

しかも、今回の企画に対しては、フロアから頂戴した質問からも、批判的な声は皆無で、むしろ、期待の声が多く寄せられた。特に、木村先生が、会の終了間際まで真摯に対応して下さったことには、感謝の声も多くあり、自民党への信頼を高めることができたと確信できる。数名ではあるが、この会への参加を通じて、我が党に期待してみようと、障害者団体の方に、新規入党も頂いた。

なによりも、政権与党だからこそ、時機に叶い、具体的に動くことで、国民の皆様に応えられる、そんな活動ができることに改めて誇りを持つことができた事が嬉しい。きっちりと政党の動きが見えれば、我が党への根本的な期待や信頼は、いささかも揺らくものではないのではないか。

日本の未来創造セミナーは今回で4回目で、防衛や子育てなどをテーマに開催してきたが、今までは、国会議員の先生方を招いた講演会で、好評ではあったが、やや一方通行の感もあった。また、旧来の自民党の支持層へのアプローチの枠を越えるものではなかった。

しかし、今回の企画は、ある意味で、挑戦ではあったが、地方議員と政策面での連携を図り、非自民党支持層への積極的アプローチを大胆に計るという意味では、青年部局ならではの構想力と機動性を活かしたものであり、画期的なものとなった。

今後も県民の関心の高い話題をテーマに掲げ、青年部局らしく、大胆に、党員以外の方々にも幅広く参加頂ける企画を立案、推進して行く。